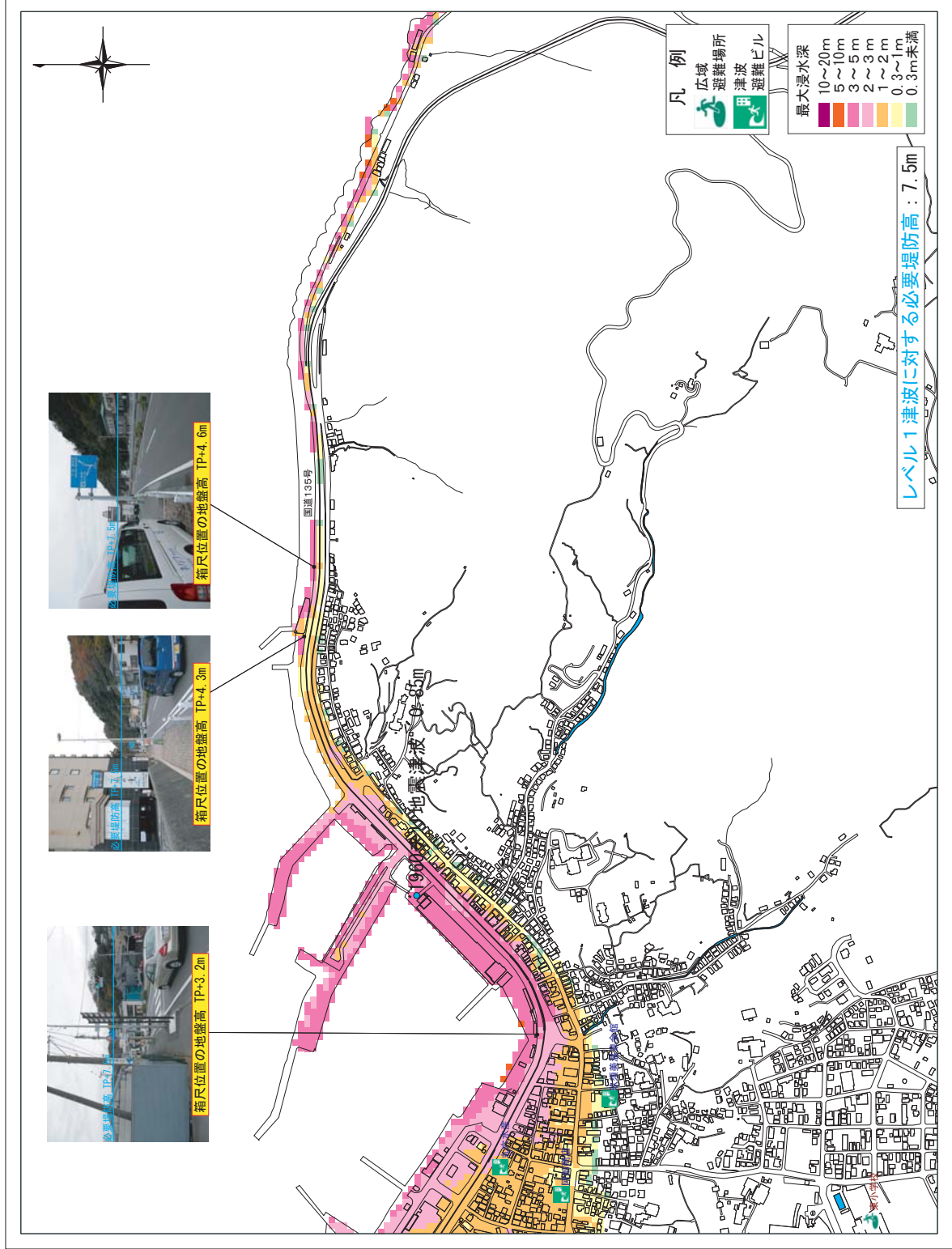


新井地区 地区協議会参考図



大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200~400年と推定。
過去の津波の出版：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）
この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。
この地図の作成に当たっては、国土地理院基の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

関東大震災被災状況

第1巻 関東大震災



図14-6 瓦葺家の惨状



図14-7 瓦葺家の地震被災状況



図14-8 安野浦町の津波被災状況。町も瓦葺の建物がほとんど壊滅状態。



図14-9 伊賀土川河口付近の様子



図14-14 山光寺前からの被害を望む



図14-15 山光寺前からの西側を望む



図14-16 黒川町丁の自から新井方向を望んだ被災による被害状況

新井地区 地区協議会用参考図

関東大震災被災状況

第1期 関東大震災



図14-6 茨城の惨状



図14-7 茨城県の津波被災状況

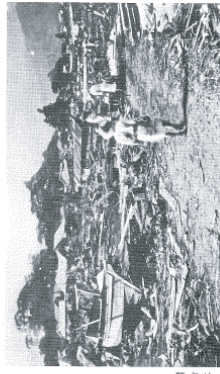


図14-8 茨城県の津波被災状況



図14-9 伊藤川河口付近の様子



図14-14 山形県から東部を望む



図14-15 山形県から西側を望む

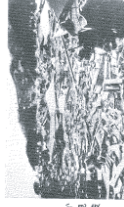
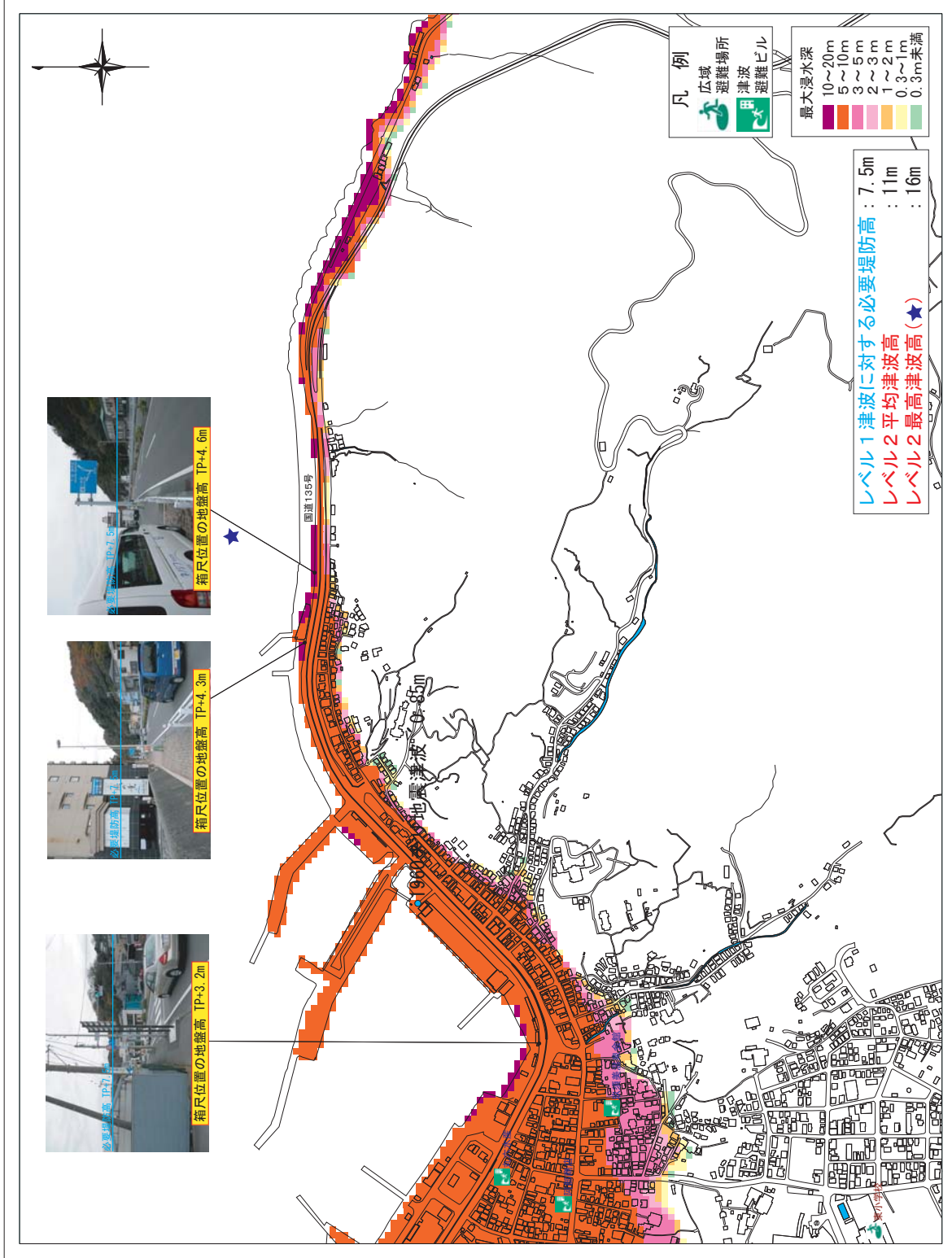


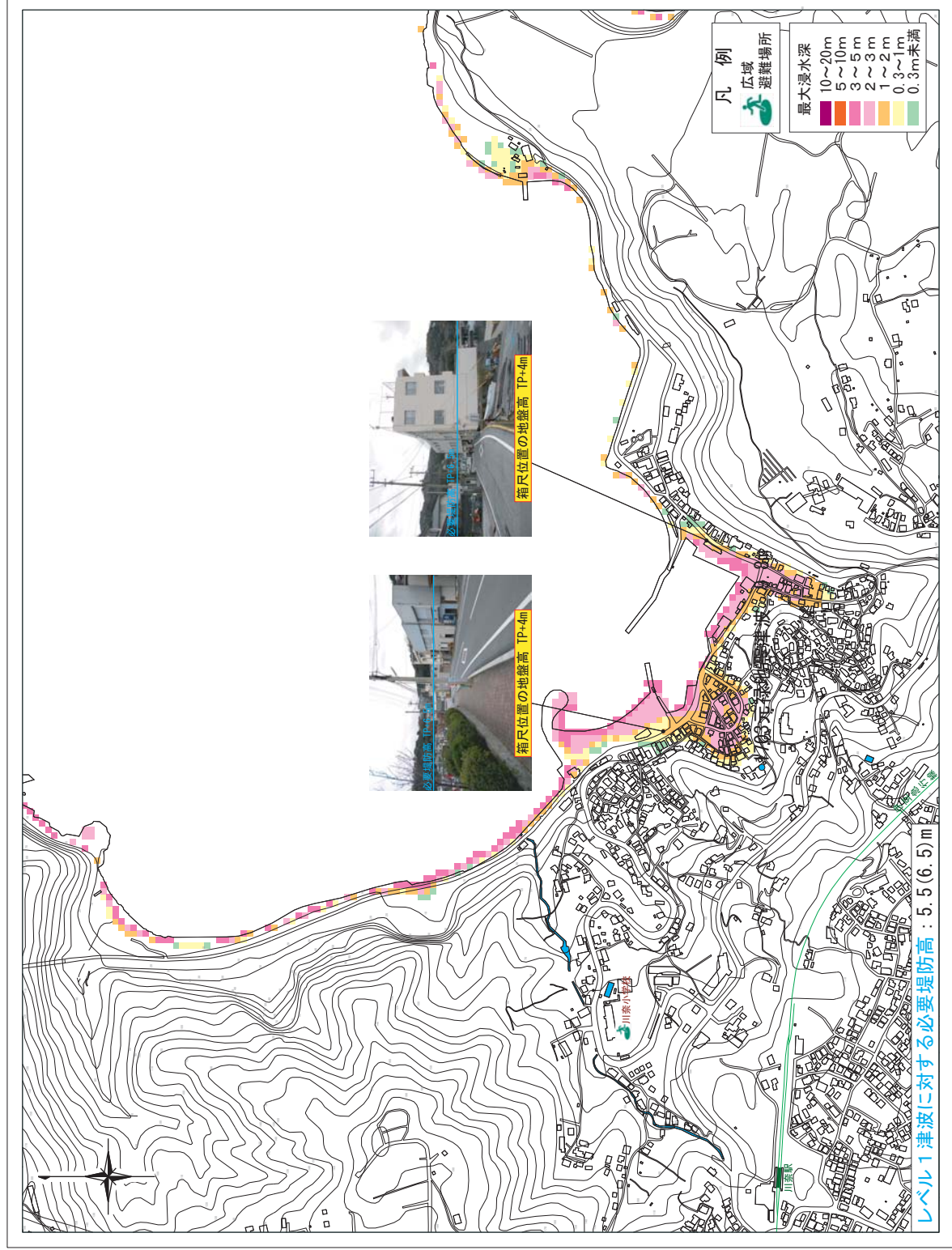
図14-16 津波の被害状況



相模トラフ沿いの最大クラスの地震（レベル2）最大浸水深図（m）

レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。
 過去の津波の典拠：津波観測データベース（東北大学・原子力規制庁）
 この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。
 この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

川奈地区 地区協議会参考図



関東大震災被災状況

第1巻 関東大震災



図14-6 瓦葺きの壊滅

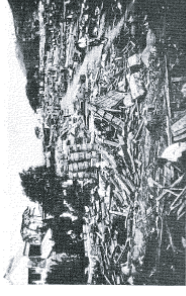


図14-7 瓦葺きの壊滅状況

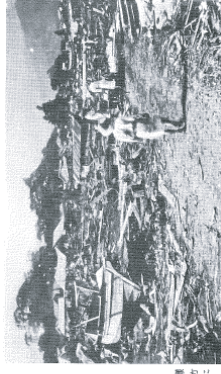


図14-8 茨城県水戸市の被災状況



図14-9 伊豆土川河口付近の様子



図14-10 山形市街から東海を望む



図14-11 山形市街から西海を望む



図14-12 黒川町丁目から新井方向を望んだ被災による被害状況

大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200~400年と推定。

過去の津波の出現、津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）

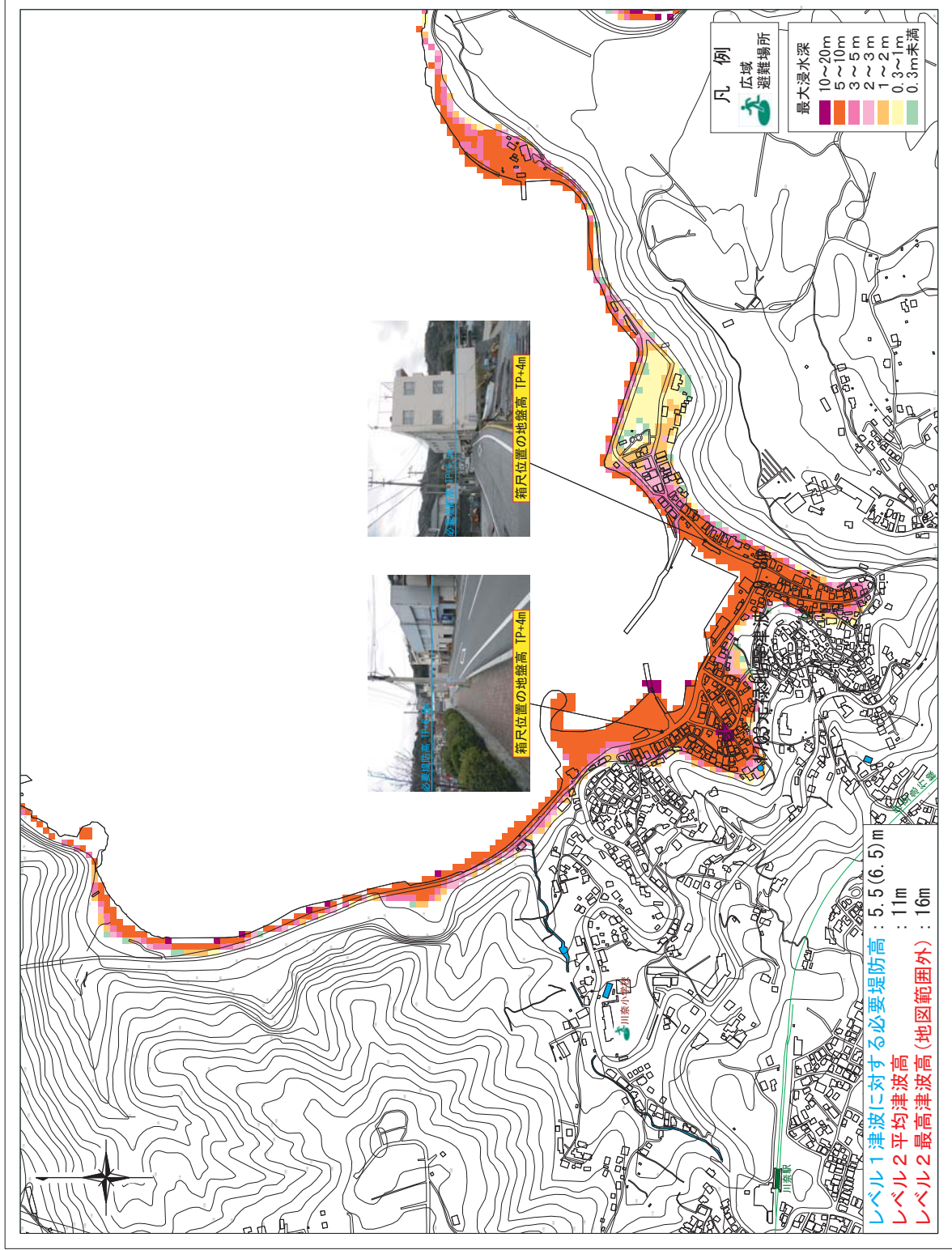
レベル1津波に対する必要堤防高の（ ）は地域海岸内に港湾や漁港等の防波堤等が存在することによる減衰効果や隅角部等での津波の取込により

津波高の变化が確認できるために細分して設定した区間のレベル1津波に対する必要堤防高です。

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平28情使 第861号）

川奈地区 地区協議会参考図



関東大震災被災状況

第1部 関東大震災



図14-6 丸根町の被災状況



図14-7 丸根町の被災状況

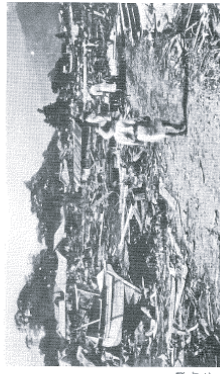


図14-8 丸根町の被災状況



図14-13 伊勢川河口付近の様子



図14-14 山崎町から東側を望む

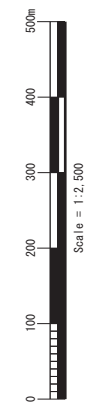
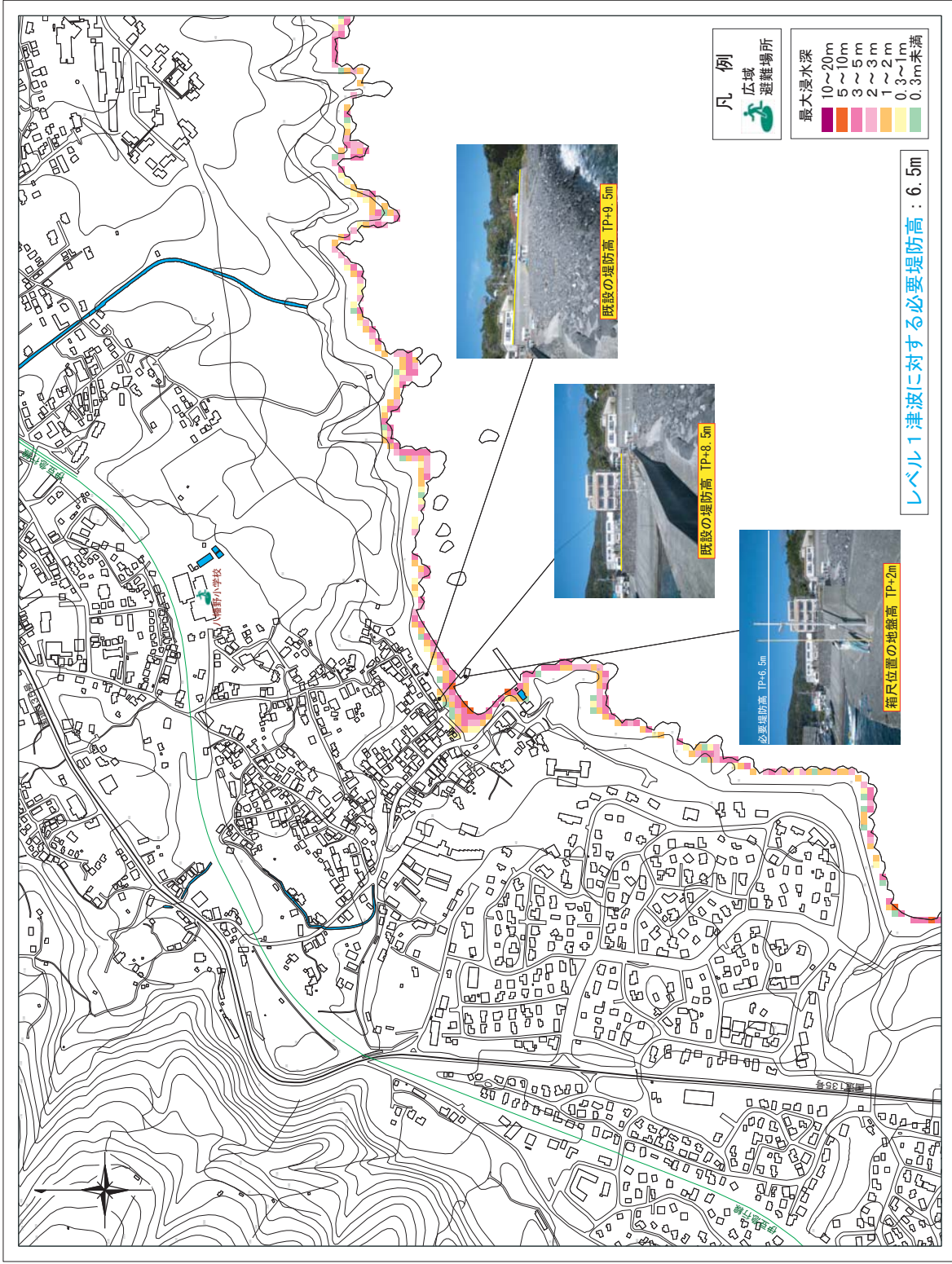


図14-15 山崎町から西側を望む



図14-16 津田町目から新井方面を向った津波による被災状況

八幡野地区 地区協議会用参考図



大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）
 レベル1津波の平均発生頻度は200~400年と推定。
 この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。
 この地図の作成に当たっては、国土地理院基の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

関東大震災被災状況

第1章 関東大震災



図14-6 花巻市の惨状



図14-7 八幡野の津波被災状況

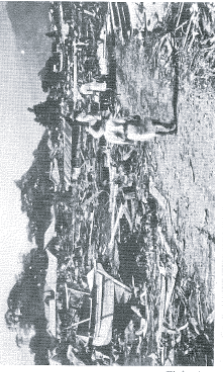


図14-8 八幡野町の津波被災状況



図14-9 八幡野町の津波被災状況



図14-10 八幡野町の津波被災状況



図14-11 八幡野町の津波被災状況

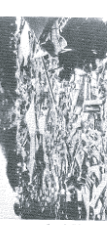
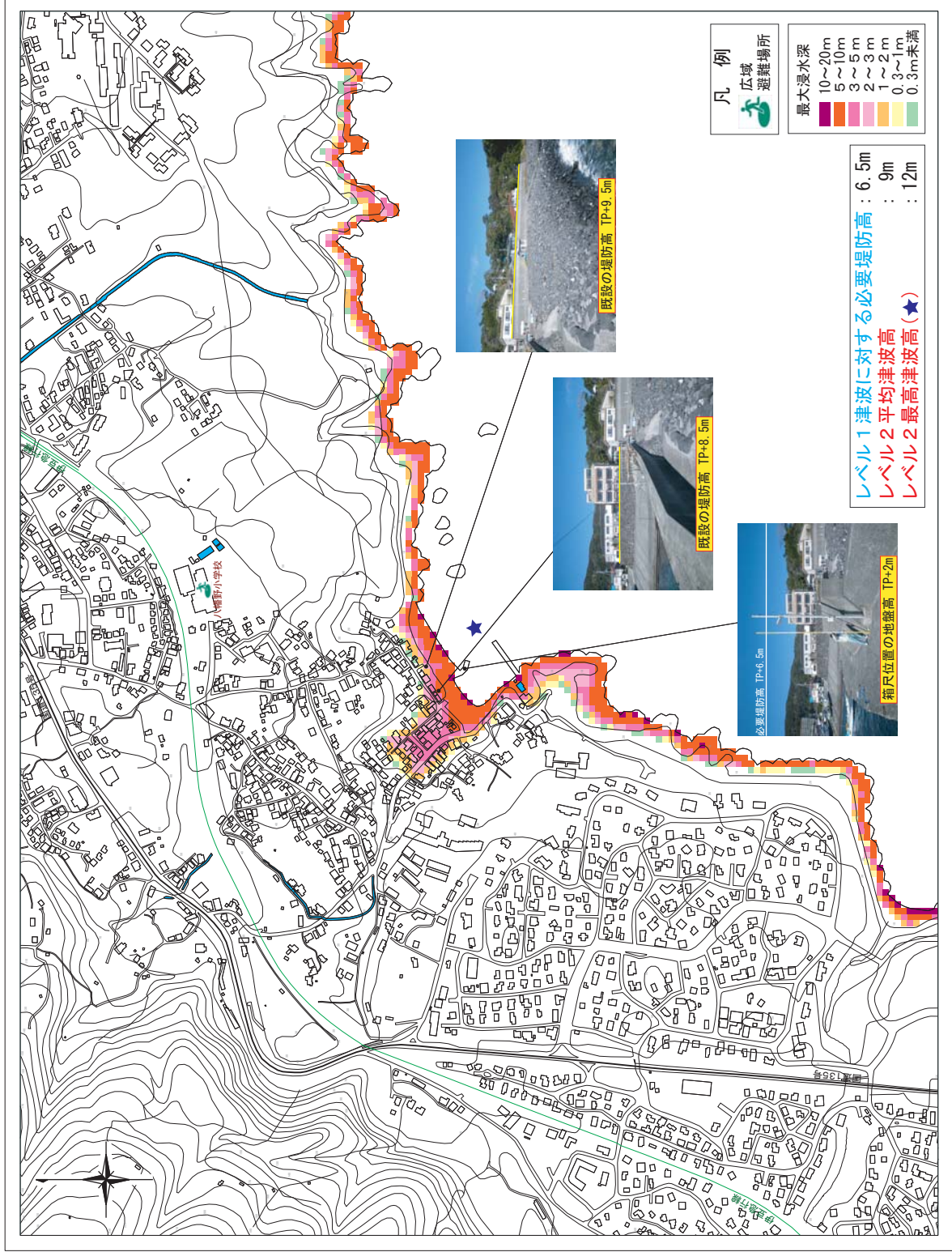


図14-12 八幡野町の津波被災状況

八幡野地区 地区協議会 参考図



相模トラフ沿いの最大クラスの地震（レベル2）最大浸水深図（m）

レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。
 この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。
 この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 第861号）



関東大震災被災状況

第1期 関東大震災



図14-6 瓦葺葺の惨状



図14-7 瓦葺葺の崩壊状況

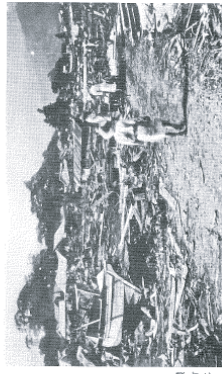


図14-8 安房郡の津波被害状況



図14-13 伊勢川河口付近の様子



図14-14 山光寺から東側を望む

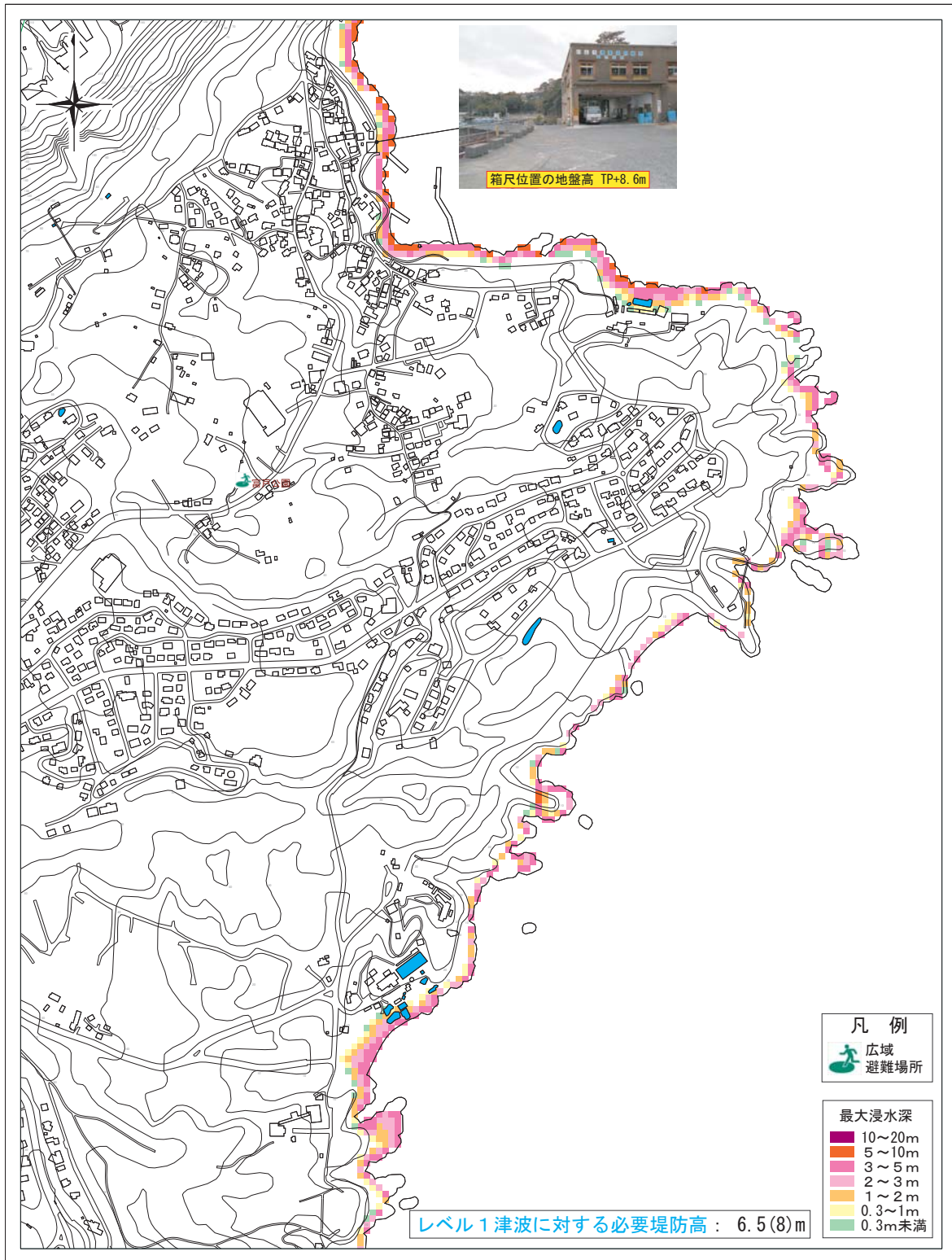


図14-15 山光寺前からの西側を望む



図14-16 津波により倒壊した家屋の様子

富戸南地区 地区協議会用参考図



大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

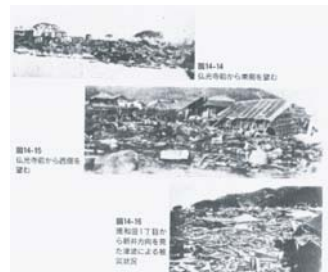
レベル1津波の平均発生頻度は200~400年と推定。

レベル1津波に対する必要堤防高の()は地域海岸内に港湾や漁港等の防波堤等が存在することによる減衰効果や隅角部等での津波の収斂により津波高の変化が確認できるために細分して設定した区間のレベル1津波に対する必要堤防高です。

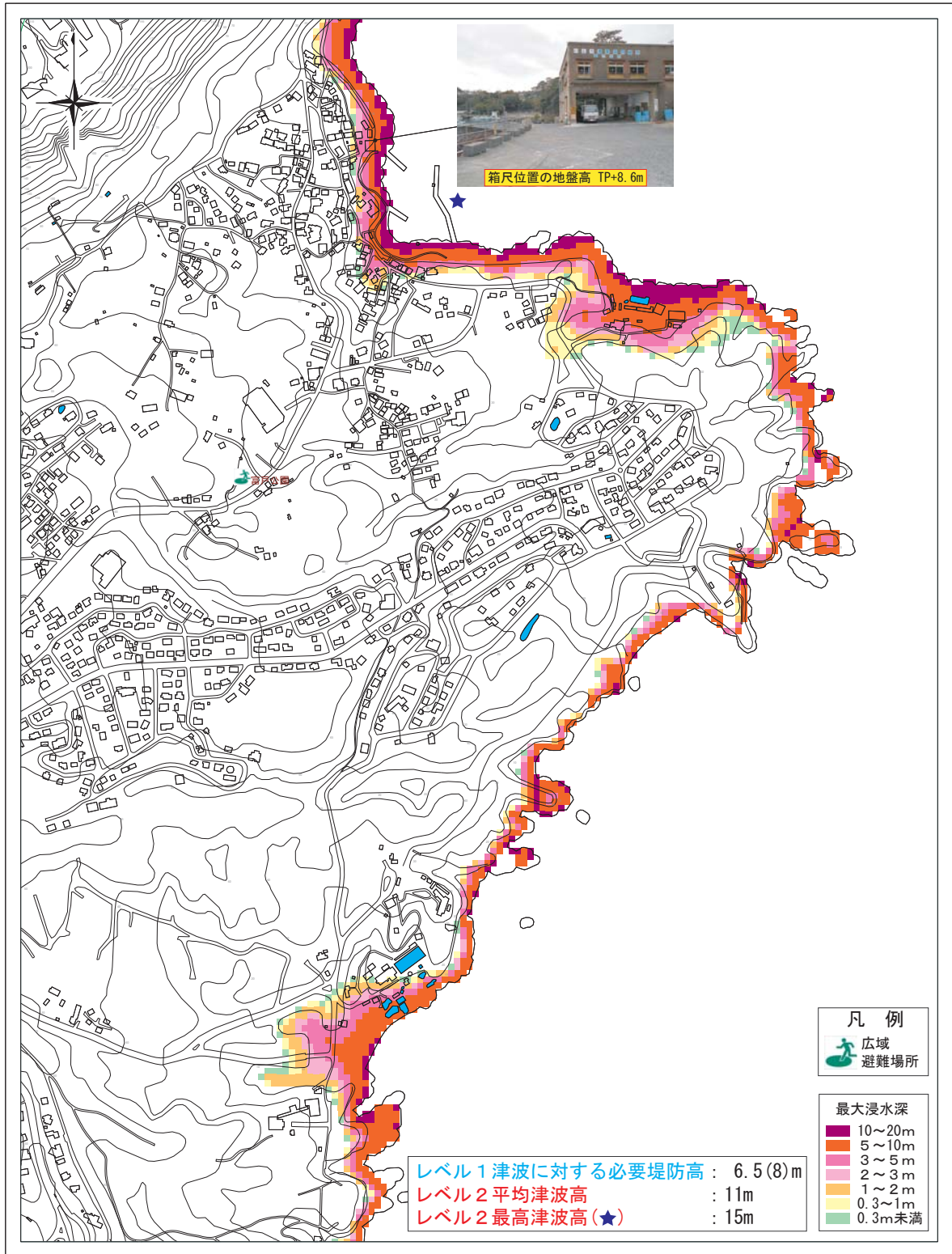
この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

関東大震災被災状況



富戸南地区 地区協議会用参考図



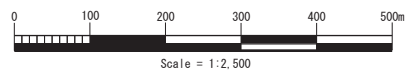
相模トラフ沿いの最大クラスの地震（レベル2）最大浸水深図（m）

レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。

レベル1津波に対する必要堤防高の()は地域海岸内に港湾や漁港等の防波堤等が存在することによる減衰効果や隅角部等での津波の収斂により津波高の変化が確認できるために細分して設定した区間のレベル1津波に対する必要堤防高です。

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。

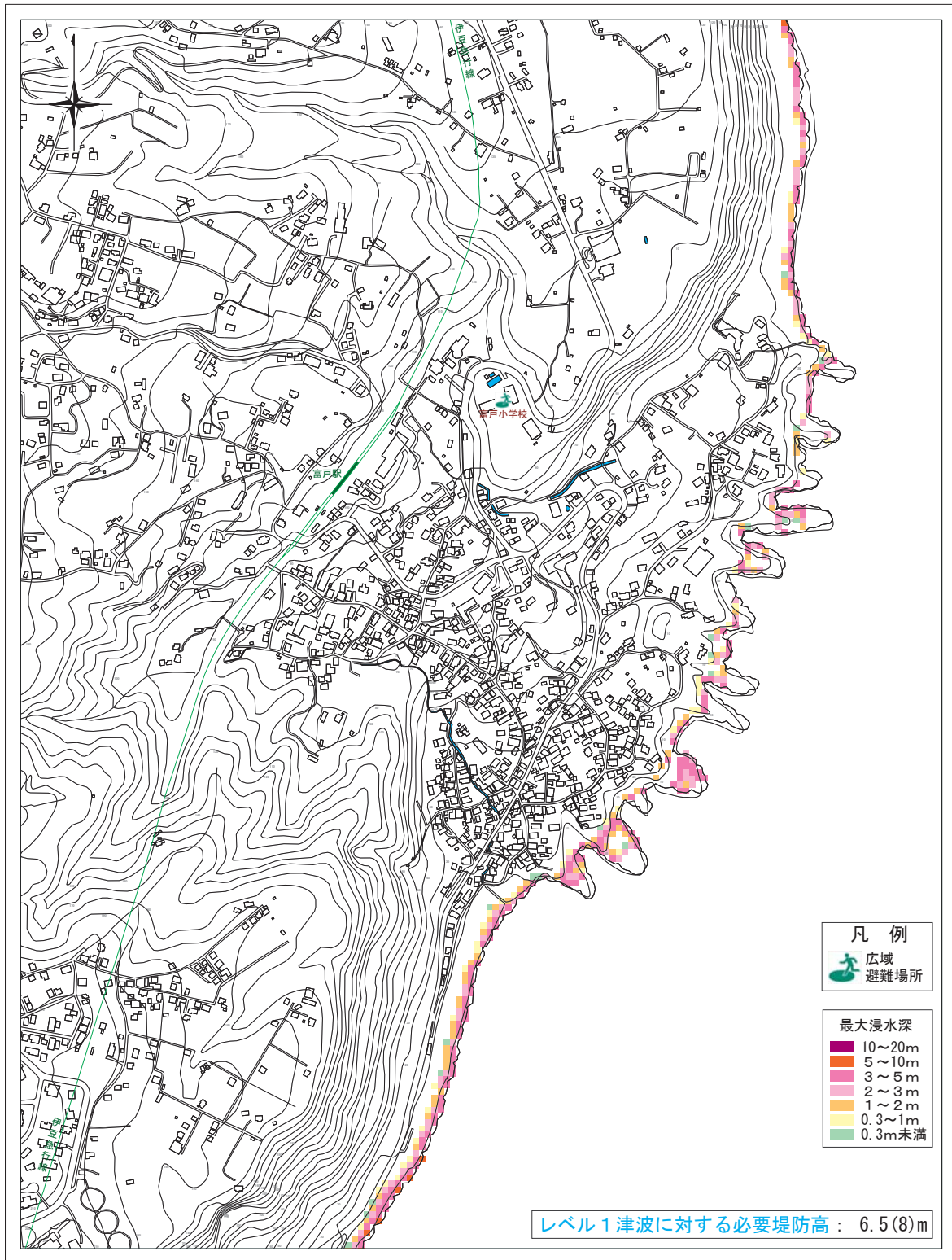
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）



関東大震災被災状況



富戸北地区 地区協議会用参考図

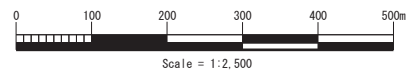


大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200~400年と推定。

レベル1津波に対する必要堤防高の（ ）は地域海岸内に港湾や漁港等の防波堤等が存在することによる減衰効果や隅角部等での津波の収斂により津波高の変化が確認できるために細分して設定した区間のレベル1津波に対する必要堤防高です。

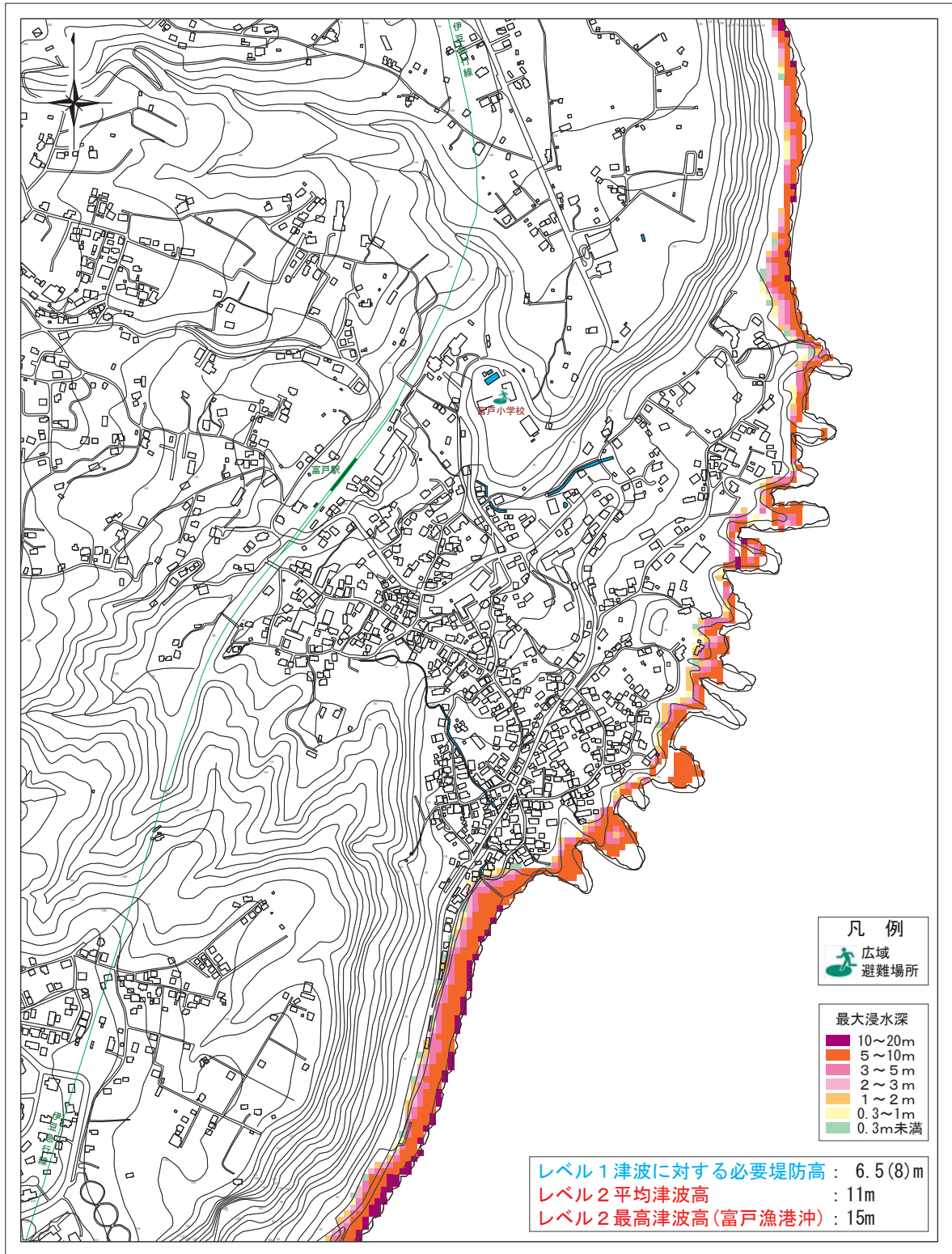
この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）



関東大震災被災状況



富戸北地区 地区協議会用参考図



相模トラフ沿いの最大クラスの地震(レベル2)最大浸水深図(m)

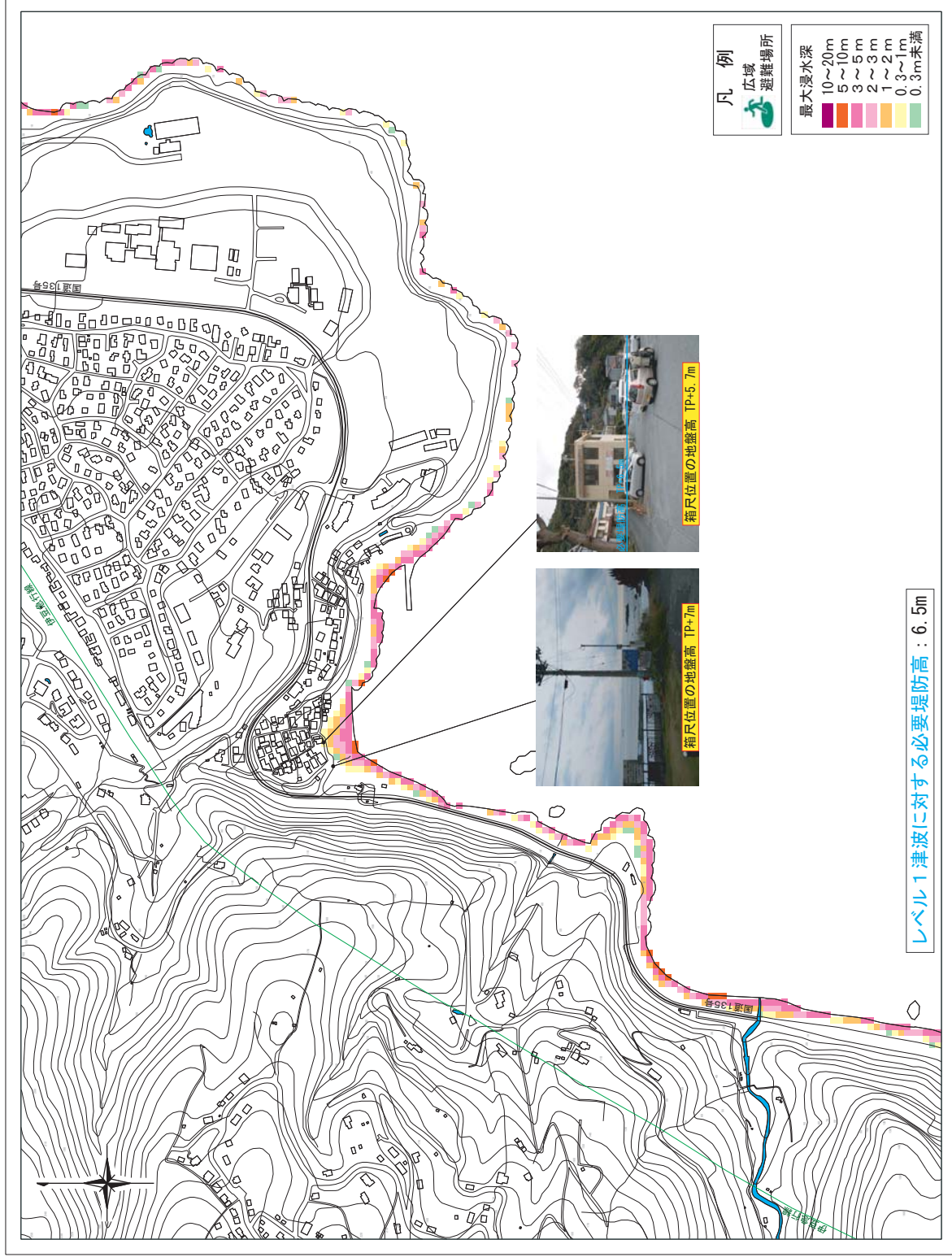
レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。
 レベル1津波に対する必要堤防高の()は地域海岸内に港湾や漁港等の防波堤等が存在することによる減衰効果や隅角部等での津波の収斂により津波高の変化が確認できるために細分して設定した区間のレベル1津波に対する必要堤防高です。

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。
 この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。(承認番号 平26情使 第861号)

関東大震災被災状況



赤沢地区 地区協議会参考図



関東大震災被災状況

第1章 関東大震災



図14-6 花浜家の惨状



図14-7 花浜家の地震被災状況

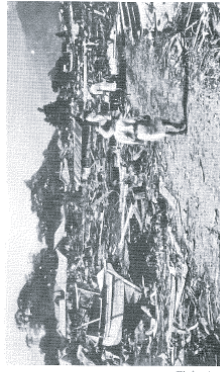


図14-8 安野浦町の津波
津波の被害状況
の多岐にわたる
被害状況



図14-9 伊藤土川河口付近の様子



図14-14 山崎町から東郷を望む



図14-15 山崎町から西郷を望む



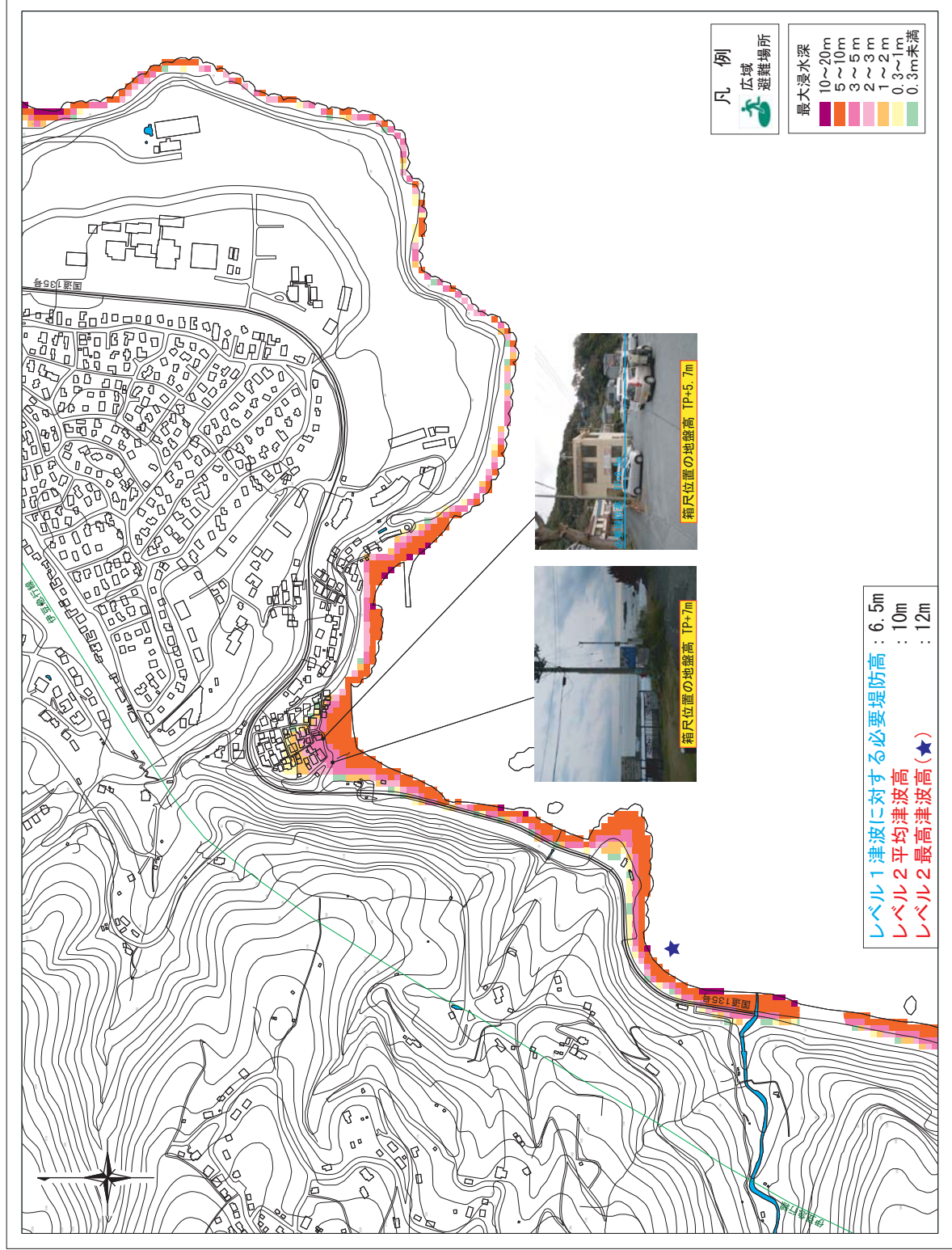
図14-16 東郷田丁丁目から
山崎町方向を望
んだ際に、津波
の被害状況が
確認された

大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200~400年と推定。

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。この地図の作成に当たっては、国土地理院基の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

赤沢地区 地区協議会 参考図



関東大震災被災状況

第1期 関東大震災



図14-6 瓦葺家の惨状



図14-7 瓦葺家の崩壊状況

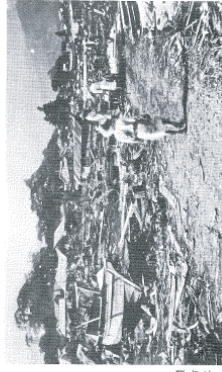


図14-8 芝罘町の海岸沿いの崩壊状況



図14-13 伊勢川河口付近の様子



図14-14

山光寺前からの東側を望む



図14-15 山光寺前からの西側を望む



図14-16 黒田町丁目から新井方向を向いた津波による被害状況

